

私たちがつくる
私たちの新しいまち 31

大槌学園 新校舎が 完成



木の温もりあふれる新校舎に、子どもたちの元気な声が響いています。沢山地区に建設が進められていた町立大槌学園（大森厚志学園長、児童生徒637人）の新校舎が完成し、9月26日から新しい学び舎での学習が始まりました。子どもたちは、東日本大震災から半年後の平成23年9月から、寺野地区の仮設校舎で学んできました。新校舎は、昨春から本格実施されている小中一貫教育の拠点として、「ふるさと科」に代表されるような郷土愛や生きる力を育む場として、地域住民が集う場として、新たな歴史が刻まれていきます。



1 体育館 2 図書室「本の森」 3 ランチルーム
4 プール 5 笑顔で登校する子どもたち（9月26日）

新校舎は、県立大槌高校の旧グラウンドがあつた約2・5ヘクタールの敷地に、木造一部鉄筋コンクリート造り2階建ての校舎棟（延べ床面積約8870平方メートル）、屋内運動場棟（同3600平方メートル）、駐輪場棟（同380平方メートル）、木造平屋建てのプール棟（同200平方メートル）などが整備されました。一昨年12月に着工し、1年9カ月をかけて完成しました。整備事業費は約56億2千万円です。

校舎棟は、子どもたちが温もりある安全安心な環境で学べるよう、教室を中心に町産材を最大限活用して木造木質化が図られました。児童生徒や教職員が、新校舎への思いや、自分の夢や希望を寄せ書きした木の梁も活用されています。図書室「本の森」、2学年が一緒に利用できるランチルームなどが設けられたほか、防災倉庫や非常用発電機を備え、避難所機能も持つ防災拠点としての役割も担います。造成工事が進められているグラウンドについても、本年度内には完成予定です。



い香りがして、とてもきれいな校舎です」と喜んでいました。震災後、子どもたちは町内外

学習が始まった9月26日、児童生徒は目を輝かせながら登校。学園集会で、大森学園長は「大槌のシンボルとなるよう校舎を大切に使うとともに、そこで生活する自分たちもシンボルになるよう、あいさつなどをしっかりしましょう。100年後もこの校舎が残るように、きれいで安全な生活を心掛けましょう」と呼び掛けました。倉澤威琉さん（4年）は「木のい

の施設を間借りするなどして学び、半年後から寺野地区の仮設校舎に移りました。平成25年4月には大槌、安渡、赤浜、大槌北の4小学校が統合。今年4月から小中一貫の義務教育学校としてスタートを切りました。

